

令和 4 年 4 月、新年度を迎えていくつかの制度改正が行われましたが、その中でも一番大きな改正は「成年年齢の引き下げ」ではないでしょうか。明治時代から今日まで約 140 年間、日本での成年年齢は 20 歳と民法で定められていましたが、ご承知のとおり今回の改正で 18 歳に変わりました。

法務省が作成した資料を読むと、引き下げの背景には公職選挙法の選挙権年齢や憲法改正国民投票の投票権年齢を 18 歳と定めるなど、18 歳、19 歳の若者にも国政の重要な判断に参加してもらうための政策が進められてきたので、市民生活に関する基本法である民法でも 18 歳以上を大人として扱うのが適当ではないか、という議論を踏まえて引き下げられることになったとあります。また、引き下げは、18 歳、19 歳の方の自己決定権を尊重するものであり、積極的な社会参加を促すことを期待するとありました。

民法改正に伴い、例えば親の同意を得なくても様々な契約が可能となり、自分の住む場所や進学や就職などの進路について、自分の意思で決めることができるようになりました。10 年有効のパスポートを取得したり、公認会計士や司法書士、行政書士などの資格を取得したりすることもできるようになりました。

確かに、行動の幅が広がりましたが、一方では「未成年者取消権」の保護がなくなることによる悪徳商法などの消費者被害が懸念されています。これまでも若年層に多く消費者被害が生じている現状を鑑みれば、学校教育においては、今後生じる恐れのあるトラブルなどについて、具体的な事例を通して一層丁寧な指導が必要となるでしょう。

すでに若者の中には、まさに大人顔負けの活躍をしている方や、社会から尊敬される素晴らしい行動をとっている方も見られますが、18 歳、19 歳の新成人を「大人だから」と突き放すことなく、大人社会全体で、ともに社会の担い手として、社会人として一層活躍できるよう資質や能力を伸ばす温かな支援が必要だと思います。

ところで、小学校 4 年生の学校行事に「二分の一成人式」があるのですが、この式の中で歌われる曲の一つに『オトナになるって』（梶野知子作詞・作曲）があります。

一番の歌詞をご紹介します、

♪ 大人になるって どういうことだろう 近頃じゃ背も伸びたし 力も強くなったよ
でもそれだけじゃまだ 認めてもらえない 大人の世界のぞいたら 気が付いたんだ
人に譲ること 人を赦すこと それができなくちゃ まだまだ 半人前
だからもう少し 大人になるまで 仲間のためにできること 大事にしていこう ♪

言うまでもありませんが、ある年齢に達したら自ずと「大人になる」ものではありません。新成人の皆さんには、才能を活かして活躍することはもちろんですが、自分を磨き「大人としての振る舞い、生き方」を大切にしてほしいと願っています。もっともそれは若者に限ることではなく、何歳になっても「大人らしい生き方」を追求することは必要ですね。改めて考えると、「大人になる」ってどういうことなのでしょう。（N.W）